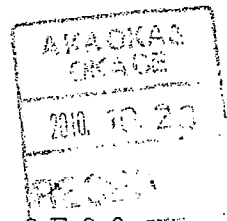


3518

発送番 726559 1/
発送日 平成22年10月19日

拒絶理由通知書



特許出願の番号	特願2006-540095
起案日	平成22年10月6日
特許庁審査官	望月 寛 3943 3-E-0-0
特許出願人代理人	赤岡 迪夫 (外 1名) 様
適用条文	第29条第2項

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものです。これについて意見がありましたら、この通知書の発送の日から3か月以内に意見書を提出してください。

理 由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

本願の請求項1に係る発明と引用文献1に記載された発明とを比較すると、本願の請求項1に係る発明が、押圧ポイントが受動的であるのに対して、引用文献1に記載された発明においては、そうともいえない点で相違する。

顔面のツボを指圧する押圧ポイントを、受動的であるもので構成することは周知の技術（例えば、実願昭62-59535号（実開昭63-166235号）のマイクロフィルムの第2ページ第11～15行、第1、3図、特開2000-201734号公報の段落【0011】、【0012】、図2～4を参照。）である。

引用文献1に記載された発明に、上記周知の技術を適用して本願の請求項1に係る発明とすることは、当業者が容易に想到し得ることである。

また、引用文献1には、マスク（1）は、人の顔面の眼及び鼻の領域を覆うことができる（請求項2）点、マスクが所定位置にある時、押圧ポイント（3）は顔面と接触するために湾曲した外部表面を含んでいる（請求項4）点、マスク本体は、押圧ポイントを取り付けるための複数の開口部（12）の群を備えており、マスク内の各群は顔面の指圧ポイントを含む局所的な指圧領域に一致する場所に配置され、そのため所定位置にある時、マスクの中の開口部の群は顔面の指圧

ポイントを含む局所的な指圧領域の上に横たわる（請求項5）点、押圧ポイントは、マスク上へ押圧ポイントの装着を容易にするために湾曲した外部表面の後ろから延びた装着部分（31）を含んでいる（請求項6）点、押圧ポイントは、マスクへ取り外し可能に取り付けられる（請求項8）点が記載されており、引用文献1に記載された発明を請求項2～10に係る発明のようにすることは、当業者にとって容易である。

引用文献等一覧

1. 登録実用新案第3055825号公報（段落【0009】～【0011】、【0013】、図1～4を参照。）

<補正をする際の注意>

（1）明細書、特許請求の範囲について補正をする場合は、補正により記載を変更した個所に下線を引くこと（特許法施行規則様式第13備考6、7）。

（2）補正は、この出願の出願当初の明細書、特許請求の範囲又は図面に記載した事項の範囲内で行わなければならない。また、意見書で、各補正事項について補正が適法なものである理由を、根拠となる出願当初の明細書等の記載箇所を明確に示したうえで主張されたい。

先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野 IPC A61H 23／02，
 A61H 39／04

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではありません。

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡ください。

特許審査第二部 福祉・サービス機器 望月 寛
TEL. 03（3581）1101 内線 3344
FAX. 03（3501）0672